

2. 小出川の水質調査

今回の6月調査は、昨年に対し上流の大黒橋（最上流地点）、一ツ橋（中流域）等を追加して、計8地点の水質と河川環境（6月16日、17日）を調査しました。（午前採水3名、午後バケツスト4名）

2.1 小出川流域の水質推移

各測定地点の水質値を右に示しました。この結果、24.6月は以下の事が言えます。

- COD（化学的酸素消費量）は、今迄は「浜園橋」が流域の平均値でしたが、今回の結果は上流から下流に向かい、上昇⇒低下⇒上昇の傾向に変わり、NO₂-N（亜硝酸態窒素）も今回の結果は上流域から中流域で増加の傾向に変化。
- 以上の事から、上流から下流までの流域内の水質傾向が今回は変化してます。その要因としては次のことが考えられます。
 - i) 最上流の「大黒橋」以外の、多地点での水中の「有機物（発生原因は生活排水等）」の増加。
 - ii) 一ツ橋の上流～寺尾橋近辺間の両岸からの肥料・下水等の流入増による「富栄養化」継続。

図1 各地点の水質傾向 (COD)

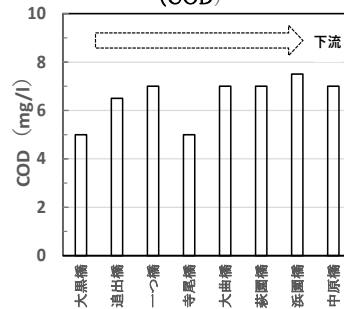


図2 各地点の水質傾向 (NO₂-N)

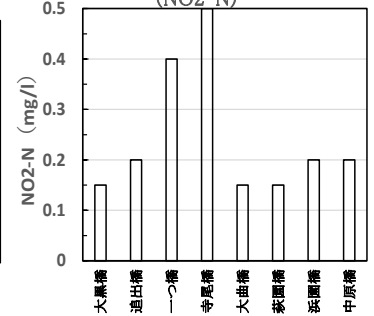


図3 測定地点の水質 (COD)

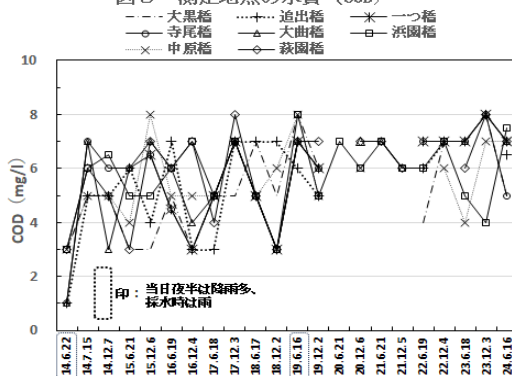
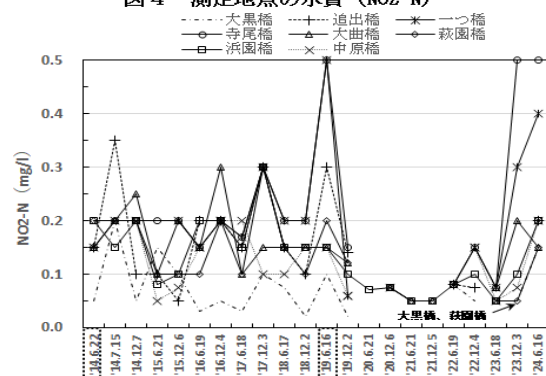


図4 測定地点の水質 (NO₂-N)



以上の結果を含め、最近10年間の各地点の水質推移（図3、4）は、次の事が伺えます。

- iii) CODは変動を繰り返しながら全体としては上昇傾向で、基準（ $\leq 3\text{mg/l}$ 、サ、アユが棲める）の2倍前後。
- iv) NO₂-Nは変動を繰り返しながら、最近数年間は改善傾向から増加傾向が継続。

2.2 川の環境状況

今回の調査地点付近の環境状況も目視調査をしました。全域でゴミの散在があり、中でも追出橋～寺尾橋の間の河川の汚さ（緑こ

け/黒泥州/プラゴミの散在/油種流入（図5、6））が相変わらず目立ちました。なお、川面や川周辺の生き物の少なさにも違和感を覚えました。河川工事は、追出橋～一ツ橋間の右岸が拡幅工事中でした。

図5 一ツ橋



図6 一ツ橋～寺尾橋間の右岸寒川耕作地・用水溝



小出川の水質は多地点で水質の悪化が目立ち、小出川の水質が「アユが棲める環境」になるにはほど遠い状況です。今後とも継続して水質と河川環境の調査を継続し、その情報を発信していきます。